

ありがとうプロジェクト第2弾 自分史を家族に発表しての感想

今までの感謝の気持や、思いは、口に出さないと、伝わらないことを改めて、気づきました。今回のプロジェクトで、ここまで育ててくれた両親への感謝の思いが伝えられて、とても良かったと思いました。また、これからはもっと両親・家族に協力してもらうことが、とても多くなると思うので、いつも感謝の気持を持って、家族と接していきたいです。こんな時期だからこそ、お互いの気持を考えあって、言い合いなどが、起こらないよう気をつけたいです！

今回家族に自分史を発表してみて、最初はやることに抵抗があったが、話しているうちに楽しくなって、会話が弾んだ。自分の将来についても、親から、将来について色々なアドバイスを貰えたし、自分の将来について考えるいい機会になった。改めて、親に相談することはいいことだなと感じた。

13年間を振り返って、たくさんのことを経験してきたなと思った。でも、その経験は、父が一生懸命働いてお金を払ってくれたり、習い事の場合は母が毎回送り迎えをしてくれたりなど両親の努力でできたことだと感じた。母は当時の写真や思い出を楽しそうに見てくれたので、大切にしてくれているのだと思った。今の自分がいるのは幼稚園・小学校の友達や先生、そして家族が支えてくれたからだと思った。今、私立の学校に通わせてもらっているのも普通のことではないので、勉強や部活に精一杯取り組みたい。それが今できる一番の親孝行だと思う。

僕は他人に生かされていて、13歳はまだまだ子供で、力がなくて、一人では生きていけないということがよくわかった。僕は人に生かされている身分なので、僕を生かしてくれている人たちに感謝し、恩に報いることができる大人になりたいと思った。

やってみてスカッとした。

今回の自分史発表を両親は興味津々に聞いてくれました。発表で心がけたのは大事なことを伝えられるようにしようとしたことです。さらにその当時に起こった出来事で思い出したことは付け加えながら説明しました。例えば小学校五年生のときにサッカーテニスをしていて当時流行っていたアニメの技を繰り出し失敗し左手を骨折し、今現在はサッカーのPK練習で右手を骨折してしまいました。また今回の自分史発表で家族のありがたみや仲間と目標に向かって頑張ることの素晴らしさを再確認できる事になりました。

親に発表して少し恥ずかしかったです。漢字の間違いで指摘されたりしましたが、喜んで見てくれたので良かったです。

話す前は恥ずかしそうでちょっと緊張していやだったけれど話してみると昔の話や自分が覚えていないことなどの話ができ意外と楽しかった。自分の今までのことを振り返るいい機会になった。あまり家族と昔の話をしないので自分史を発表して久しぶりにできてよかった。

親は「懐かしい」や「こんな事もあったね」と言っていた。僕は記憶にないものもあったのでこんな事あったんだー？と自分のことなのに忘れていたことも多かった。

今回このような「ありがとうプロジェクト」を行って、今まで自分はたくさんの周りの人から支えられ、そしてなにより親にとってもお世話になっているということに気づいた。だから、これから注意などをされてもカッとなるのではなく、助言だと思ってしっかりと受け入れていこうと思った。発表した時に親からそれぞれのことの細かい話を沢山教えてもらい色々なことを知れたり思い出せたりしました。親、特にお母さんがしている家事はすごいことだと改めて考えたのでもっと感謝の気持ちを持つと思いました。

自分の昔の話を私の知らなかったところまで知れたので、結構楽しかったです。改めて将来のことなどについてもよく考えることも出来ました。

自分の親が私の将来の夢のページをたくさん見ていて興味があるんだなと思いました。

親に見せるのが恥ずかしかったけれど頑張りました。

これからも沢山のの人に感謝を伝えていきたいなと思いました。

今、新型コロナウイルスによる感染症の危険にさらされています。普段当たり前にできていること、例えば電車で学校に通うことなどが当たり前にできることのありがたみを感じています。乳児期より、私は「健康優良児」でほとんど病気になったこともありませんでした。それが、親の立場からすると「本当にありがたいことだった」と言われました。元気な身体と心があってはじめて、様々な経験ができるのだと、改めて実感しました。また、生まれる前に私の母は悪阻がひどく、入院をしていたそうです。何ヶ月も吐き続けるなんて、私は本当に嫌だと思いました。ですが、私の母は、嫌な思いなんて全くしなかったそうです。それは、私の誕生をとっても楽しみにしていたから、だから辛くなかったそうです。私には想像ができません。生まれてからの私がとっても元気なので、「親孝行だ」って思っています。

親へ普段伝えることができない感謝をしっかりと伝えることができよかったです。また、改めて自分はたくさんのことを支えてもらっているんだなと感じました。そしてこれからも手伝いなどを続け、これからは自分が家族の支えになれるような存在になりたいと思いました。

今までの自分を改めて振り返ることができて、「こんなこともあったな」と思い返すいい機会になりました。そして、いろいろな思い出作りをするためにたくさんの場所に連れて行ってくれた両親に対し、感謝の気持ちができました。振り返ってみると、自分は結構変わった子供だったんだなと感じました。自分史をきっかけにたくさんのことを考えられ、この機会を与えてくださった、先生方にも感謝しています。

まず、自分史を書いて、「自分が何をしたいのか」、「何が特別良くできたか」気づくことができ将来の夢が見つかってよかった。また、親や、祖父母のことを調べるきっかけとなってよかったと思う。なぜかという、あらためて命の大切さや、ここにいるのは奇跡だということに気づき、どんなことも頑張っていこうと思えたからである。次に、自分史を親に見せたことで、反対されそうと言ってなかった将来の夢を伝えることができた。自分の家の宗教的にあまり良く思われなかなと不安だったが、「意外といいんじゃない。がんばって。」「実は死んじゃったおじいちゃんがいとこのお姉ちゃんにおすすめてたんだよ」ときき、安心して将来の夢が叶うように頑張ろうと思えた。また、恥ずかしくて言えなかった感謝の気持ちを伝えたことで、自分の気持ちがスッキリし、家族の雰囲気ももっと良くなった気がして、とても気分が良くなった。忘れかけていた感謝の大切さを思い出すことができた。

最初はやるのことに對して「あまりやりたくないな」と思っていました。しかしやってみると意外に、楽しかったです。お母さんに「メモみたいだね」と笑われました。でも発表したことによって感謝を伝えられたと思います。

改めて、自分は家族に支えられて生きているんだなと感じました。また、今まで支えてきてくれた家族にいつか、恩返しをしようと思いました。

始める前までは緊張や恥ずかしさ、ためらいなど、どっちかというやりたくない気持ちがあったのですが、やってみると、先生の言っていたとおり、意外と面白かったです。今回、私がこの自分史を書くにあたってテーマにしていたことが、「未来の自分が読んで微笑めるような一冊（つまり、個性を大事にしたかったということです！）」だったのですが、家族がこの本に目を通したとき、真っ先に笑ってくれたので、「これは良い本ができたぞ...むふふ」って我ながらこの本はすごいぞってなりました！とくに嬉しかったのが「この本売ってたら真っ先に買う！いやあ5000円でも買うわー」と言ってくれたことで、本当に時間をかけて描いたかいがあったなと思いました！（絶対に売れませんけどね☹）未来の自分にも早く読ませてやりたいです！きっと「絵懐かしいな～。何言ってるんだ私～！」となると思いますが、そこがまた良いですね！「未来の私へのタイムカプセル」みたいな！今まで、形に残る思い出を作ったことがなかったので、本当に良い経験ができました！自分史は一生、死ぬまで大切なものにします！

自分史を調べてみるといろいろなことがわかって楽しかったです。また、自分の過去を思い出せたので良かったです。

最初は猫に発表に付き合ってもらったので、本番は全く抵抗なくプレゼンすることができ、発表している最中は妹がオーバーリアクションをして聞いてくれたのでとても盛り上がった。発表が終わったあとは家族が私の「自分史ノート」の写真や装飾に興味を持ってくれたので、「頑張って作ったかいがあったな」と思った。私がこの「自分史発表プロジェクト」をして気付いたことは、「私の今があるのも、自分史があるのも全て両親のおかげだ」ということだ。

家族と自分の昔を思い出したため、昔の自分の話をするきっかけとなり昔の自分をさらに知ることができた。たまにはこのような自分を振り返る機会というものが必要だと思った。

自分の人生を振り返れて良かった。意外と発表してみたら楽しかった。こういう時期で大変だけどこういう事をして家族があたたまったらいと思った。

自分史を発表して、最初は自分の昔のことを発表するなんて恥ずかしいなと思っていたけど、途中から、昔の自分の雑談が入って意外と喋りやすかった。なので親できちりとした話ができいい機会だった。

最近は「少しは運動してこい」や「ゲーテラすんとか言われてばかりで、少しイライラしていたが、両親に見せたら。喜んでくれていました。両親と一緒にいるときが多いこの時期だから 生んでくれたことに感謝しつつ一緒に頑張っていかなきゃなと思いました。

改めて自分史を発表して今までいろいろな人に迷惑をかけたか感謝しなくてはいけないことがあるのでこれからも感謝の気持ちを忘れずに過ごしたい

初めて母に自分史の発表をして、私が小さい時もお母さんが頑張ってくれてたのだと実感しました。そして、私は自分の幼い頃についてあまり知らなかったのですが、この機会ですべて聞くことができ、面白かったです。最近あまり話していなかったけれど、自分の過去や未来について話すことができ、良かったと思っています。

この発表を親の前ですべて改めて自分がどういう人生を歩んできたのかを考えました。そして、親から「自分を客観的に見てこの人と友達になりたいと思う？」と聞かれました。私は「友だちになりたい。」と答えました。理由は自分が明るい人だと思ったからです。今までどんな人にも優しくしようと考えて行動してきました。そのような優しい考えを持っていたから今のように優しい友達にも恵まれたと思います。しかし、人には必ず嫌な人もいます。そのような人ともこれからは仲良くしていきたいです。そして、これからも優しい人を目指して生きていきたいと思っています。

今回自分史を家族に見せてみて、見せる前は結構だいが恥ずかしかったけど、自分史に書いていた家族に対しての思い??が伝えられて良かったです。今回の課題がなければ伝えられなかったかもです。

家族の前で制作した自分史の発表を行い、一番に思ったのは人に伝えるということの難しさでした。制作し始めた段階では、読んでもらう想定で制作したので、実際家族に説明するとき書いた文章だけでは上手く伝えたいことが伝わらず大変でした。ただ、自分が生まれてから今までの振り返ることで、家族が自分にとってかけがえのないものだ改めて感じました。これからも、プレゼンをするような機会があれば、今回よりももっと上手く相手に伝えられるようにしたいです。

私が家族に自分史を発表して気づいたことは、私以上に両親がいろいろな旅行や成長を記憶しておいてくれたことです。いつも私の成長にあまり感情に表さないのが興味ないのかな、と思っていた部分がありましたがいざ、話してみると母よりも話してくれて大切に育ててくれたんだなと思うことができました。また、発表してみた感想は私は7という数に結構関係があるなと思ったことです。生まれた日が7月27日で、生まれた時間が午前10時7分、身長が47センチ、体重が2720グラムでありすべてに7が入っていることに驚きました。また、両親からは、名前の由来を書いたりもっと性格についてかいたりしたらどう？とアドバイスをもらいました。また、中学受験での親の目標が文武両道だったらしく今の私に必要な言葉だということがわかりました。今回の発表を通して、両親からチャレンジする心や人との関わり、実体験を通して豊かな心を持ってほしいと言われました。自分史の発表をして親の本当の優しさを知ることができ良かったです。

アルバムを見てるような感じで、自分が小さかった頃に起こったハプニングとか面白かったこととかを話し合えてすごく楽しかった。自分の過去を振り返ると、いろんな人に支えられてきたことがよくわかって感謝の気持ちがいつもよりも出た。過去には嫌なこととか、後悔とか思い出したくないことがたくさんあるけど、たまには振り返ってそういうのに向き合うと今の自分の行動とかが変わるかもしれないってことに気がついた。

はじめのうち、やる前などはあまりやる気はなかったけど、やっているうちに「このとき○○だったよね！」と会話がはずんで案外楽しかったです！今を生きて、これからの未来に向かうことも大事だけど、ときには過去を振り返ってみるのもいいものだなと思いました！また機会があったらやってみたいと思います！

親に自分史を見せるのは少し恥ずかしかった。けど喜んでくれたので嬉しかった。お母さんが、ぼくが生まれるときはなしをしてくれて子供を生むときの大変さに気づいた。自分が思った以上に自分を大事にしてくれていることを知った。発表しながら小さいときのことや小学校のことや今のことを家族と話してなつかしく思った。今は学校に行けないので部活の話が家族としているときに部活に行きたくなくなってしまった。将来の夢に向けて頑張ろうと思った。

今回の自分史発表で、自分も知らない新たな発見がありましたし、なんといっても読み返してみても改めて家族のみんなに支えてもらってばっかいるので家族のみんなに感謝したいです。

今回、家族に発表する機会が持てて良かった。まず、自分の誕生から現在に至るまでの自分の出来事や当時思っていたことなどを振り返ることが出来た。同時に、家族や周りの人たちに支えられたり、協力してもらって成長してきたのだと思うと、改めて感謝したいと思った。また親にこれから頑張らなければいけないことや、進路の話などをしてみて、少し具体的に将来について考えることが出来た。例えば、自分が思っているよりも、大学にはいろいろな学部があることや、職業にもいろいろな仕事があることを教えてもらった。現在のコロナの影響もあって、今、父は家でテレワークをしている事などからも、今後の働き方について変わっていくこともあるという話もした。作成した自分史を親と一緒に再確認出来てよかったと思った。また、変わっていくことも出てくるかもしれないが、引き続き自分プロジェクトに取り組んでいきたい。

両親に自分史を見せることが楽しみでドキドキしていたけれど、いざ見せてみると恥ずかしさの方が大きかった。私が話しているとお母さんとお父さんが自分史に書いてあること以外の、私が覚えていないエピソードをたくさん話してくれた。親は自分より自分の成長や変化を知っていることに気づいた！ここまで育て、受験に落ちて大変だった時期も私を諦めずに最後まで寄り添ってくれた両親がありがたいなと改めて思った。普段は照れくさくてなかなか言えなかった感謝の言葉もこの自分史の発表を通して、ちゃんと伝えられた！改めて、自分史で自分の過去をふり返ってみると、私は性格の変化がすごく大きいことに気づいた！人は周囲の環境や時が経つことによって、いくらでも変わることが分かった。また、私の家は普段みんな揃って話すことがすごく少なく、みんな揃ったとしても私のお父さんは無口でなかなか話さなかったけれど、この自分史の発表で久しぶりに家族3人みんなが和やかに話せた！！今回の発表は私の家にとってすごくいい機会でした！

親に自分でつくったものを見せるのは久しぶりで少し恥ずかしかったですが、この機会にしっかりと自分の事もしれて、親からアドバイスなどももらったので良かったとおもいます。私は兄弟も何人かいるので一緒にみて思い出をはなしてました。

今回、お母さんに自分史を見せて、私は小さい頃のことをあんまり覚えていませんでしたが、写真を見ながら「このときこうだったよね！」や「そういえばこの子と仲良かったよね！」など、いろいろと振り返ったりしたのでだんだん思い出しました！なのですごくいい機会になりました！お母さん、お父さんは私のためにいろいろなことをしてくれていたんだと思い、感謝の気持ちでいっぱいです！これからもたくさん迷惑をかけることもあると思いますが、食器を洗ったり、洗濯物を入れたりお風呂を洗ったり、ご飯を作ったり、などなど、小さなことでもできることはお手伝いをしようと思いました！

この活動を通して、幼い頃に出かけた場所や行事などを写真で思い出すことができた。たくさん撮りためた写真の中から自分の成長のシーンを選ぶ作業はとても楽しかった。写真には、そのときに関わってもらった人たち、家族や先生や友達などたくさんの人の笑顔があった。自分がどれだけのの人たちに見守られ支えられながら今までの楽しい時間を過ごしてきたのかをあらためて感じる事ができた。それに感謝しながらまとめることができた。両親に見せたときに父が言った「ついこの間まで赤ちゃんだったのにあつという間に中学生だあ」という言葉が印象的だった。一生懸命に育ててくれたんだなと感じた。母は、まとめたもの以外の思い出もたくさん話してくれた。「お出かけ出来るようになったら、またここに行きたいね」と次の計画を立てていた。私はそんな母に似たんだなあ嬉しく思った。

自分史を家族に発表することは、家族は私のことを知っているからあまり意味のないものになるのではないかと思っていました。ですが本当に発表してみると、発表している私も、発表を聞いている家族もいろいろな発見や、考えることが思っていたより多くあり、驚きました！また、生まれたときのことを発表している時にお母さんから私のまだ知らないエピソードなどが聞けて、まだまだ知らないことがあるんだなという発見とともに生んでくれてここまで私を育てて来てくれた家族への感謝の気持ちがありました。私はこの自分史の発表を通じて、自分の知らない自分のことや家族のことなどがたくさん知ることができました。時にはこのように自分のエピソードや家族のエピソードを話す時間を作るのもいいと思います。

日頃話すのとは違って、ちょっと面白かった！笑。私にはほとんど覚えのない出来事の話も聞くことができた。私がやりたいと言い出したことは全てやらせてもらっていたことに気付いた。

自分史の本に書いたことを話しましたが、その他にもたくさんのエピソードを話してくれました。私自身、小さいときのことはあまり覚えていないから親しか知らないようなことまで聞けました。また、将来について話せました。普段自分の将来について話し合う機会はなかなかないから、うれしかったです。この自分史では自分のことだけ知らないことがたくさんあると気づきました。これからは、こういう自分のことを話す機会を増やせればいいなと思いました。

少し見せるのに不安を感じていましたが、実際に見せてみると自分が知らなかったことをとても教えてくれました。他にも、今の自分がすごく大人になったよねと褒めてくれました。とても嬉しかったです。

今まで育ててくれた両親に自分の話をするのは違和感があったけど、自分が思ってた以上に親が知っていてくれて、嬉しかったです。今後も機会があればやっていこうかなと思いました。

自分史で今までの自分のルーツがわかりまだ自分の人生は始まったばかりと感じました。今までの出来事を見て両親が一生懸命育ててくれたんだな～と思いました。だからこれからも両親に感謝をして一生懸命勉強をして自分にあつた仕事に就きたいです。

今回の自分史ノート発表では、親に自分のことを話すと、喜んでくれるということに気が付きました。また、自分史を作る中で、今までの自分のことを振り返ることができたので、おもしろかったです。自分史の発表はとても緊張したけれど、父と母が喜んでくれたので、嬉しかったです。

お父さんから「全体的にととても丁寧に書かれていた！！」と言われて、また自分の知らないことがまだたくさんあることがお父さんの話を聞いてよくわかりました。この本には書ききれなかったことがまだまだありました！そして、お母さんから「大変よくできています！（あなた）の小さい頃にタイムスリップした気持ちになりました。その頃は、活発だったけどあまり手のかからない事が多い、育てやすい子だった。小さい頃から負けず嫌いで一生懸命だったのでそのまま育ててほしい！」と言われて、いろいろな思いを持って育ててくれていたんだなと思い、改めて感謝したいと思いました！！

自分の「自分史」を家族にプレゼンテーションしてみて、人に伝えることでさらに自分のこれまでをよく知ることができました。自分についての文章を読み上げるのは、なんだか恥ずかしかったけれど、両親が相槌を打ちながら、「そうそう、このときはこうだったよね。」とか、「このときには、こんなこともあったのよ。」とか嬉しそうに聞いてくれて、私も嬉しくなりました。自分史作成から少し時間がたっていたこともあり、私も忘れていたところもあったのですが、家族に伝えたことで思い出すことができ、理解も深まりました。そして、何より家族で私の幼い頃について話す機会ができたことで、楽しい家族団らんの場になったことを嬉しく思います。

これまで過ごした中で、自分が思っている以上にたくさんの人に関わり助けられてきたことを改めて実感しました。小さい頃の出来事は自分が思っていたのと違ったり、裏背景があったりより自分について詳しく知ることが出来ました。自分の覚えていることが全てと思わず、たくさんの人との交流を深めることこそ、自分についても、他のことについても詳しく、新しい発見を得ることの近道なのだと思います。小さい頃と今の好みはもちろん違って、それでもやはり小さい頃好きだったものは今でもよく食べていたりするので、根本的な部分は変わっていないんだなあと思いました。周りの人に言われる、「大きくなったね」という言葉に実感をあまり持てていませんでしたが、写真や思い出を読んでいくうちに顔つきや、行動が少しずつ大人に近づいているというか、幼さがなくなったなと自分自身の成長を感じることが出来ました。特に小さい頃は外で遊ぶ！という感じでゲームより鬼ごっこが好きでしたが、今はゲーム、漫画、Youtubeなので、悪い意味で成長してしまったなと思ったので、そこは幼い頃のままにいなければなと思いました。最後にこれから先、過去を振り返った時にこんな事もあったなと色々な人と語り合えるように、積極的に物事に参加しコミュニケーションを取り、周りをよく見て行動しようと思いました。

色んなとこに、たくさんお出かけをされていて、良い思い出を作れて良かった、成長を感じた...と家族は言ってくれていたのが良かった👍 恥ずかしい写真もあったけど自分でも成長を感じた！いつも反抗期や思春期の影響で、週に1回は喧嘩をしているお母さんや、優しいけどたまに怒るお父さんも、ここまで育ててくれた事に感謝して、これからも頑張っていこうと思う。そしてこれを発表して、いつか親孝行をしてあげたいなと思いました。今は何か高級なものを買ってあげるとかお金でしてあげる事はできないけど、その代わりに今できる、例えば成績をもっとあげたり、部活でも大会で優勝したり、家のお手伝いをしたりしてあげようと思いました！

気づいたことはお母さんから指摘されたことですが、誤字があったことや漢字で書くところをひらがなで書いていたことです。感想はお母さんが自分史ノートを見て嬉しそうに笑っていたので私も嬉しくなりました。昔の出来事を思い出しておしゃべりしました。最近一緒に家にいることが多いので喧嘩をしたり言い合いをしたりしてしまうことが多くなっていたのですが久しぶりに思い出を話してとても楽しかったです。

今回親に自分史を見せたところ、上手だねと言われました。今まで恥ずかしくて将来の夢を言ってこなかったのですが、空港で働きたいと言ったらいい夢だね！と言われました。なんだか嬉しかった。成長の過程と一緒に見て、あの時あんな事あったねーとかこんなことあったねーと言ってるうちに懐かしい気持ちになりました。

家族に見せた所、今までの自分を振り返りやすくて良かった。そして私自身のことが本にでていておもしろく、その時々 of 出来事や家族の出来事が振り返られて懐かしく豊かな気持ちになったそうです。そしてこのような取り組みがあっておもしろい取り組みと言っていました。自分も自分を振り返るということを小2のときにやったのですがやはり年月が経っているので思い出すことも多くて比べてみてみたら自分プロで作ったほうが内容も深くて家族の意見と同じく作ってよかったなと思いました。

思ったより楽しそうに見てくれて嬉しかったです。見やすいように工夫したりシールなどを貼って可愛くしたりたくさん工夫しました。そういったところにも気づいてくれて嬉しかったです!!一番小さいときの自分を見て懐かしい〜とかそうだったね〜とか普段話さないようなこともたくさん話せてよかったです。そして、今の自分と昔の自分で成長したねと言われました。やっぱりこういった機会に改めて成長した姿を見せることで親への感謝なども同時に伝えられるからとてもいい機会だなと思いました。これからまた成長していくと思うけどこういう機会をたくさん作っていこうと思いました。

私は今回の自分史を、家族に発表することで、家族と思い出を振り返ったり、今後の予定を立てるなど、団らんの時間が増えて、前より仲良くなりました。発表することは恥ずかしくなかったのですが、自分のいままでを振り返れて楽しかったです。

昔を思い出すことができた。生まれたばかりの時から身長がかなり伸びたので、自分でも大きくなったと思いました。これからの将来に向けても頑張ろうと思いました。